

■ヒーロー：Piet Hein Eek

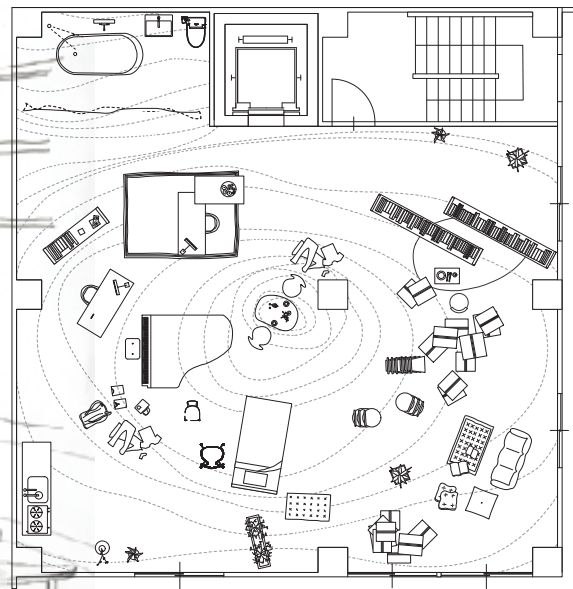
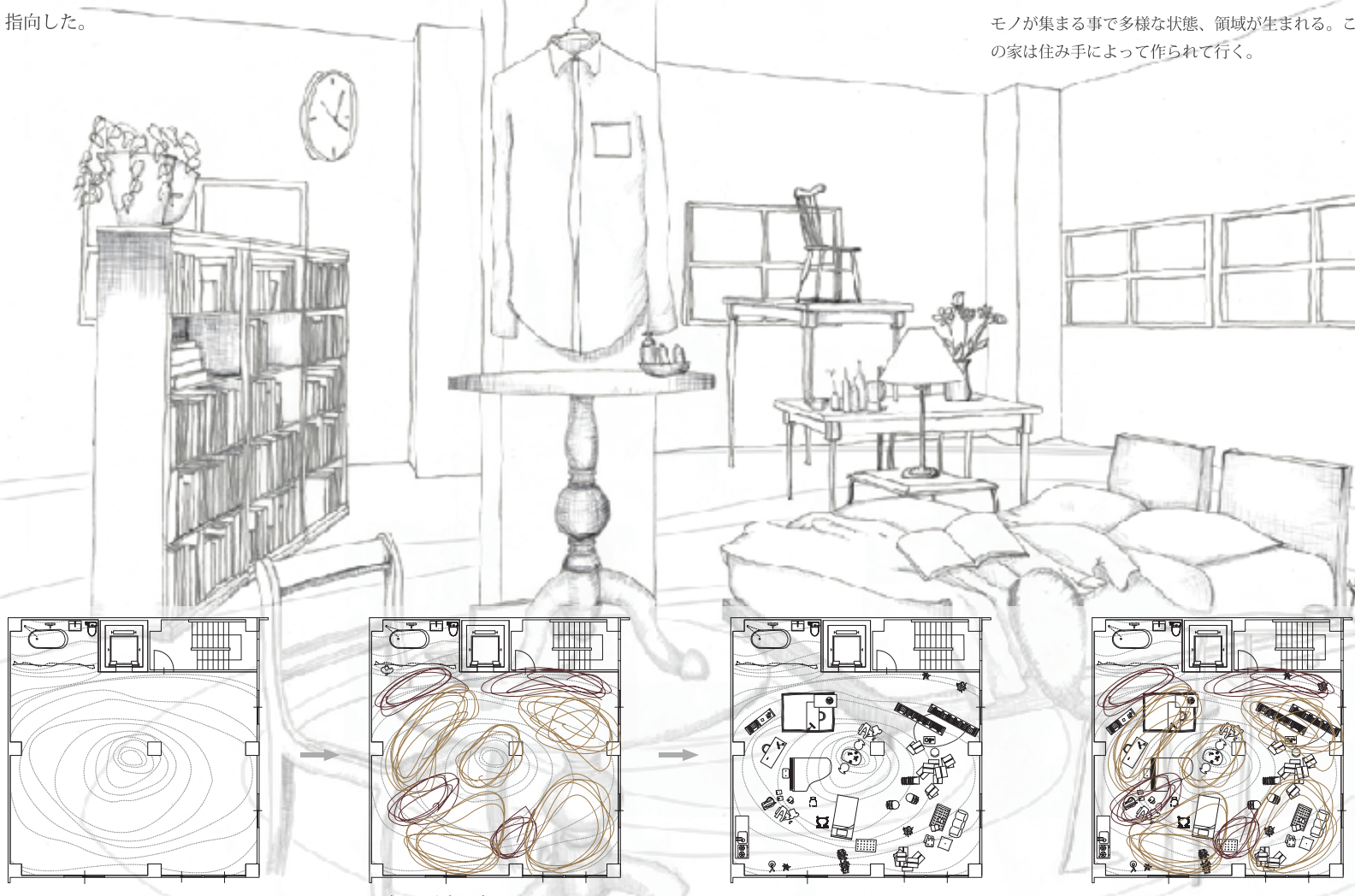
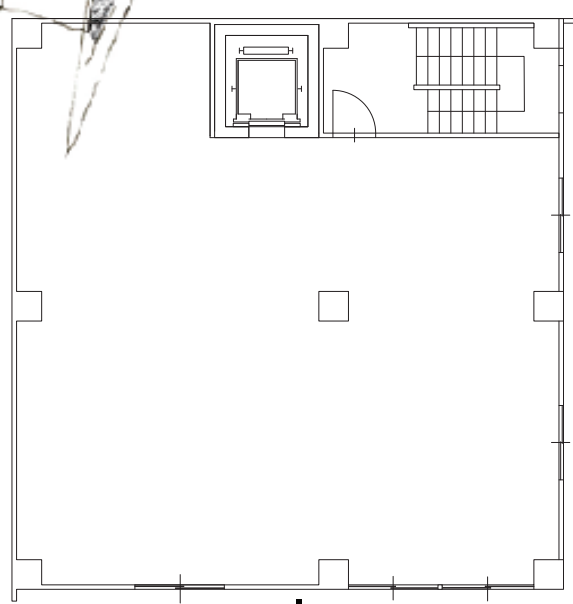
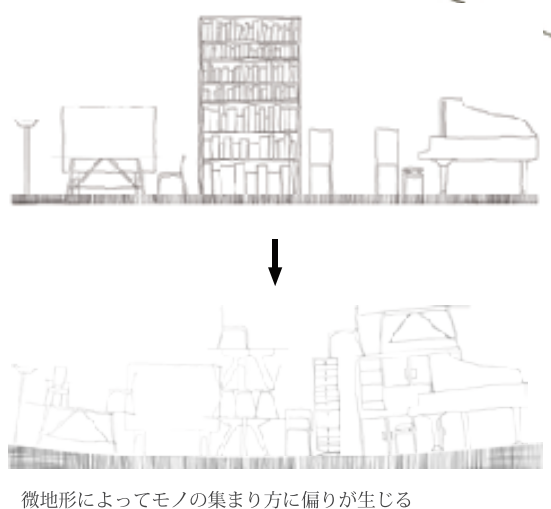
現代のヒーローとはいかなるものか。
彼の作品はキレイなモノを作ろうとする現代的な手法とは対照的に、素材や手法からコンセプトを決め、多くの時間と手間をかける。それ故にゆるやかで力強いメッセージを発している。不便だからこそ得られる豊かさが彼の作品から感じられる。

■物件
都営浅草線蔵前駅から徒歩3分の場所に位置している。周辺には商店やビルが立ち並び、その一角にある倉庫の2階を対象とする。現状が倉庫であるからこそ得られる豊かさを目指す。

■コンセプト
モノ：ここでは住人の持ち物をさす。持ち物、家具などのモノが積まれる事によって空間は分節される。部屋がそのまま住人の姿を映し出す。

微地形：この住宅には地面に少しの起伏がある。少し起伏のあるところには少ししかモノは積まれない。起伏が緩いところには高くモノが積まれる。起伏に沿ってモノであふれる空間は住人の姿を映し出しながら、領域を形作って行く。

こちらから押し付けるのではなく、何もしい訳でもない。住人の生活と、個性をおおらかに包み込むモノを指向した。



微地形とモノが合わさる事で空間が成立する。
過剰なデザインではなく、最低限の提案で空間としての豊かさを獲得する。

□床にほんの少しの勾配がつく □勾配が少し急なところと平坦な場所が生まれる □勾配によって家具の配置、積み重ね方がアフォードされる □微地形によって家具の空間に動きが生まれる

○勾配がきつい場所 ○勾配がゆるい場所